日置地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年１１月４日（火）　１９：００～２０：１０

２　会　場　日置地区公民館

３　出席者　地元出席者　　４２名

市側出席者　　１７名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中企画推進部長、尾室教育委員会事務局長、久野新市域振興監、国森都市整備部次長、高橋秘書課長

＜青谷町総合支所＞小林支所長、武田副支所長、秋田市民福祉課長、中宇地産業建設課長、早川水道局青谷営業所長

＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　地域の重要課題について

１　旧日置小学校南校舎の解体及び跡地利用について

＜地域課題＞

小学校旧校舎が築５０年を経過し、外壁モルタルの剥離・落下が発生する状態になっており、通行者への危険が危惧されます。

また、地区事業（運動会、納涼祭、まちづくり協議会事業、公民館事業）を実施するとき、参加者の駐車場の不足が顕著になっています。

解決策として、旧校舎を解体して駐車場として整備し、地域の事業参加者の利便性と安全の確保を図ることにより、地域活性化の一助となるものと考えます。

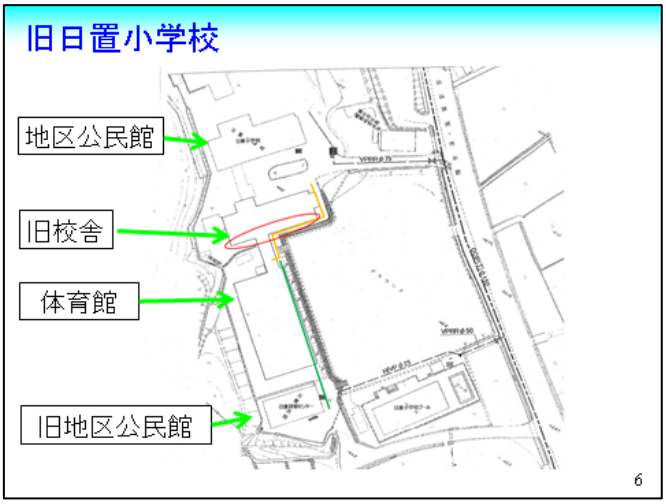
なお、現在は校舎を公民館倉庫として利用しているため、解体後は駐車場横に事業用具等保管の倉庫を併設することも切に要望します。

＜担当部局の所見等＞

【教育委員会】

旧日置小学校校舎（普通教室棟）の外壁モルタルの落下箇所につきましては、安全対策として立入禁止の措置を取っています。体育館へは旧校舎を通らず、旧日置地区公民館側から入っていただくようにしています。

旧校舎の解体は費用面も考えると、現在のところ実施は困難です。



（教育委員会事務局長）

旧日置小学校南校舎は、現在は物置等に使っています。７月に、旧校舎南側のモルタルが剥離し落下して

危険であるというご相談をいただきましたので、今は南側部分を通行止めにしています。なおかつ、先日足洗い場の辺りを埋めてフラットにする工事を行い、ＬＥＤ照明を設置して迂回路を設定しました。

旧校舎の解体については､解体､整地するには数千万円の費用がかかる見込みですので、現在のところは今回の修繕で対応したいと考えます。

（地元意見）

それでは、何年先になったら解体ができるのでしょうか。何年もすればますます危険になるのではないですか。危険なままということでしょうか。

（教育委員会事務局長）

現在のところ今後の整備の計画は立てていませんが、昭和５７年建築の建物ですので、校舎については、外壁等でもし危険な箇所が出てくれば修繕で対応していこうと考えています。

（地元意見）

学校は昭和５７年建築と言われたが、３７年の誤りですよね。

（支所長）

旧日置小学校南校舎は、昭和４０年２月竣工です。

（地元意見）

中身がもう悪くなっているのに外壁だけ直しても、かえって余分な費用がかかるということではないでしょうか。

（教育委員会事務局長）

中身はまだ大丈夫です。ただ、外壁についてはモルタルが剥がれていますので、そちらの修繕についてご要望があれば、それについては検討したいと思います。今いただいている見積もりでは１００万円超程度の費用がかかるようです。

（地元意見）

では、早く直していただくようにお願いします。

（教育委員会事務局長）

分かりました。検討させていただきます。

（深澤市長）

数千万円の費用がかかるというのは解体、撤去の場合です。今すぐにはなかなか難しいということはご理解いただきたいと思います。実施可能な段階になれば、解体、撤去等も検討させていただきたいと思いますが、とりあえずは安全管理が一番大事です。モルタル

が剥がれて落ちてくるといった危険な状況の場合には、まず安全管理、安全第一で対応させていただきたいと思います。

2　県道２８０号線俵原青谷線（県道小畑・青谷線）の山根集落内の拡幅について

＜地域課題＞

山根集落内の県道の道路幅が狭く、小畑集落、河原集落通勤者はもとより、日ノ丸バス、和紙工房来場者の大型バス等すれ違いに苦労している。道路幅の狭さにより、事故発生の危険性が危惧されます。

また、冬季には積雪のため道幅がさらに狭くなり、より一層危険性が増す状態です。山根集落より、地区要望にて「県道の法面改善」を要望していますが、現状「検討中」とのことで、結論が出ていません。このような危険な状態を速やかに改善すべく、市側から県に対し強く要請していただきたい。

また、現行県道の拡幅が困難であれば、バイパス道路も含め検討いただきたい。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

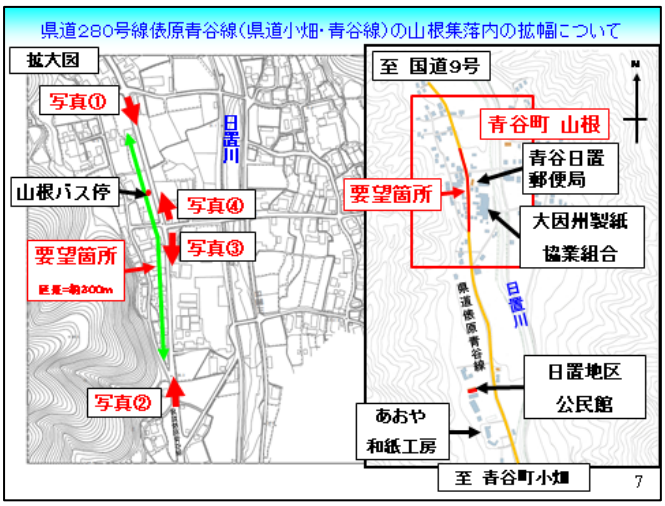
県道俵原青谷線の道路管理者である鳥取県に確認した結果をお知らせします。

（鳥取県回答）

県においてＨ２８から事業化を予定している中山間地域道路整備計画での実施を検討したい。

本市としましても、県道俵原青谷線は生活の基盤となる道路であり、地域の皆様との話し合いやご協力をいただきながら、道路管理者である鳥取県に対し引き続き要望してまいります。

（都市整備部次長）



山根地内が４車線から２車線になっていて非常に狭いこと、また、雪が降るとバスもすれ違いができないということでご要望をいただいていると思います。

この件については、既に県に要望しており、県も生活道路として認識しているとのことです。用地の問題等もありますが、できる限り皆様とともに課題を解決しながら、しっかりと県に要望していきたいと思っています。

なお、バイパスについては、まず土地について皆様とお話をさせていただきながら、県にしっかり要望させていただければと考えています。

県は、県道を中心に中山間地域の道路対策事業を実施しており、狭いとか通学路として

危険だといった道路の対策をしています。それに併せて、この道路改良も要望していきたいと思います。

（地元意見）

山根地内の県道２８０号線の拡幅が、なかなか進まないと感じています。今、日置川沿いにコンクリートが打ってありますが、早牛と山根の間に一部舗装していない所が２００ｍ程度あります。今年、生コンを７ｍ^{3}ほどいただきましたが、舗装するためには毎年５ｍ^{3}や７ｍ^{3}いただいても４、５年が必要です。できれば、一挙に生コンを打って補完的な通路にしていただきたいです。

（都市整備部次長）

原材料支給の関係だと思いますが、市全体のバランスもあり上限が決まっているので、状況を見ながら原材料支給を確保させていただきたいと思います。現場を確認し、本当にどのくらい必要なのか、また１年でどの程度できるのかということも見させていただきたいと思います。年次的に２００ｍ実施されると聞いていますので、５０ｍ^{3}程度必要でしょうか。１年間に７ｍ^3、１０ｍ^{3}の原材料支給ですが、市全体のバランスもふまえながら、早めにできるようにしていきたいと思います。

（深澤市長）

市全体のバランスをみながら割り振りするので、年度によっては他地域に予定していた分を回せる場合もあります。これも合併効果の一つかと思います。これから来年度の予算編成をするので、この場で実施しますと言うことは難しいですが、ご要望として承りたいと思います。

（地元意見）

生コンをならす８０ｃｍか９０ｃｍ程度の幅の機械を、総合支所で買ってもらえると良いと思います。集落で買っても、数回しか使用することがありません。そんなに高くはないと思うし、木で打つよりはきれいに仕上がります。

（深澤市長）

分かりました。どんな物か分かりませんが、少し検討させていただきたいと思います。

（支所長）

原材料支給で生コンを打たれる集落では、その集落で木材を加工して使用しておられます。支所で購入しても管理ができませんので、必要な材料を言っていただければ材料も含めて提供します。木材があればお好きなパターンができると思いますので、集落で加工してご使用いただきたいと思います。

５　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

因幡の祭典が終わった後、商工会議所でも但馬、豊岡方面の広域観光に力を入れていると思いますが、広域観光を本当にするのなら地元の鳥取市の観光にもっと力を入れていかないと、本当の広域観光はできないと思います。鳥取市観光協会から鳥取市観光コンベンション協会に変わって３年が経ちますが、新市域の８町の観光協会は鳥取市観光協会と全く関係がなくなりました。この３年間、合併協定の観光事業整備の助成も一切いただいていません。市に質問すると、旧気高エリアについては西商工会と団体に全てを任せていると言われます。かなりの補助金が出ていますが、実態は山紫苑を中心とした「ふるさと鹿野」に、指定管理者の費用として全てつぎ込まれています。前市長が、この補助金は青谷町と気高町の為にも使ってほしいとくれぐれも言っていました。実態を調べてください。あおや和紙工房にも、一切その光は当たっていません。

合併前、青谷町は西の端ではなく西の玄関口だという目標を持っていました。今は完全に西の端で埋没しています。市長は、県市長会の会長でもあります。中部広域観光ネットワークに青谷町観光協会を入会させてください。そして、年会費を全額支援してください。中部行政管理組合の中部広域ネットワークには、岡山県真庭市も入っています。米子道は、終点まで行くと出雲大社に行って松江道で帰りますが、途中の蒜山で降りる観光客は、中部の温泉地に泊まって行き場がなくなっています。ぜひ青谷町を通り、無料の鳥取自動車道を通って岡山方面に帰っていただきたいです。

（深澤市長）

広域観光について、いろいろなご提言をいただきました。私もその通りだと思います。これからは、１つの市町村で観光の取り組みが完結するのではなく、周辺市町村、または県境を越えて北但馬や県外のいろいろな広域ネットワークを構築して観光商品が造成され、観光客の誘客を図っていくことが必要だと思います。今後どのように進めていくかについては、中部との広域観光ネットワークを形成することによって効果的に行われるのかどうかということもあります。いろいろな組み合わせもありますし、鳥取市が中心となり時にはリーダーシップをとりながら、圏域の観光客誘客に努めていかなければならないと思っていますので、一つのご提言として承りたいと思います。

また、西商工会への補助金については、必ずしも観光についての補助金ということではないと認識しています。山紫苑等に関するご意見もありましたが、これは指定管理者制度によって鳥取市の公の施設を株式会社ふるさと鹿野に運営をしていただいている状況です。

いずれにしても、今後も皆様と一緒に、鳥取市を含めた広域観光の取り組みを強力に進めていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

（地元意見）

青谷町は、西の玄関口ではなく東の出口になってしまっています。何をしても鳥取市の出口になってしまい、取り残されている感じがします。県道の草が伸びていても、河川敷のガードパイプに草が巻きついていても、まだ刈ってありません。合併するまではこんなことはなかったと思いますが、合併してから鳥取市の端になってしまい、全てが遅れている感じがします。農免道路も大変木が茂っていて前が見えず、事故がないのが不思議なくらいです。カーブミラーも木で見えません。限界集落にならないように、西の玄関口に、

もう少し目を向けてもらいたいです。

（支所産業建設課長）
県道のガードパイプに草が巻きついていたことについては、今年の夏に県の担当者に伝えました。県の話では、今年は勝部からの全地区の草刈りを一つの業者が実施しているので、遅れぎみになっていて申し訳ありませんとのことでした。一応、実施はしていただいています。
木がカーブミラーを覆っているというのは、五本松の道路だと思います。流れ出た土砂は市が一度処理していますし、草刈りも西道路管理センターが実施していますが、西道路管理センターで旧気高郡内を全て担当している関係で、草刈りの回数に限りがあります。
なお、草刈りは先月末で終了し、今後は除雪用の枝の切り払いをしていくと本日報告を受けています。広範囲を受け持っているので遅くなることはあると思いますが、実施はしますのでご理解ください。

（深澤市長）
道路については総合支所が一所懸命しています。県の対応が少し遅れている状況もありますが、そのあたりは引き続きしっかり対応していただくことになるかと思います。
西の玄関口ということですが、鳥取市は合併１０年を迎え、新しいまちづくりを皆様と一緒になって進めていく時期にあると思います。合併していろいろな対応が遅くなったという受け止め方をされているようですが、決してそうではありません。２０４０年には、ますます人口が減ると名指しで言われた状況もあります。地域が立ち行くようにし、今後発展させていくためには、若い方にもっと鳥取に定住していただき活躍をしていただくための環境づくり、また、子どもを産み育てやすい、安心して子育てができる環境づくりに取り組んでいくことが必要だと思っています。合併したから何もかも悪くなったということではなく、合併して大きな市になった良さを活かして、地域づくりやまちづくりをしっかり進めていく時期が、１０年の節目の今であると思います。
今年８月には、山陰海岸ジオパークの世界ネットワークについて、４年に一度の再審査がありました。そして青谷町まで含めた西エリアが、新たに世界ジオパークのエリアとして認定されました。鳴り砂、和紙、そしてお不動さんの周辺もエリアになりました。青谷町には上寺地遺跡もあり、全国に誇れる素晴らしい資源などがありますので、そういったものを活かしてまちづくりに取り組んでいきたいと思います。悪くなったということではなく、もっと良いまちにしていかなければならないと思っています。

（地元意見）
日置の防災部の会長をしています。広域消防や市の消防団がありますが、中途半端です。

（深澤市長）
東部広域行政管理組合では常備消防を担当させていただいていますし、地区消防団の皆様には、いつも安心安全の確保のために取り組んでいただいています。改めて感謝申し上げたいと思います。中途半端だという感想をお持ちですが、私は、常備消防と地域の消防

団の皆様が連携して、いろいろな活動に当たっていただいていると認識しています。地区団や常備消防が一緒になって、夜間訓練や山林火災等を想定した訓練なども年間を通じて行っています。何かあれば協議する会も持っています。また、新しく消防団に入団された方の研修や訓練も、常備消防、東部広域職員が指導させていただいていますし、毎年鳥取市で大会を行って上位団が県大会に出られる操法訓練も一緒に行っています。私は、日頃からのこのような取り組みも非常に大切だと思っています。今後も連携を密にし、災害発生時に効果的に対応できるよう一層努力していきたいと思っています。

（地元意見）

自主防災会と町消防団との訓練の連携というのは、あまりした覚えがありません。

（深澤市長）

防災訓練については、地区消防団の皆様と東部広域の常備消防とで協力しながら、一緒に実施している例もたくさんあります。防災フェアと銘打って、毎年定期的に近くの消防署が出向かせていただいて訓練を行っている所もあります。いつでも対応するというのは難しいかもしれませんが、東部広域行政管理組合にでもお声をかけていただければと思います。

（支所長）

日置地区では、９月に地区公民館を会場として、広域消防、地区団、各部落の消防訓練を実施しました。今後、各部落の消防組織で何か必要なことがあれば、広域消防や地区団などに派遣依頼をしますので、お声かけください。

（地元意見）

今は災害が多く、いつどのような災害が起きるか分かりません。その時、自主防災会がどういう姿勢で対応すれば良いのか教えてください。

（深澤市長）

それぞれの自主防災会や地域で、さまざまな災害を想定した防災訓練等を実施する、あるいは防災マップを作る、また、いざ災害が発生した場合はどのような経路で避難したり、どういった形でお互い助け合って対応していくのかについて話し合うといったことを、日頃から行っていただきたいと思っています。地域で取り組んでいただくのが基本なのですが、危機管理課に防災コーディネーターがいますので、声をかけていただければ防災マップの作成を手伝ったり、自主防災訓練に参加させていただきます。これは、平日はもとより、休日もできる限り対応させていただきたいと思いますので、ご検討ください。

いずれにしても、災害はいつどのような形で襲ってくるか分かりません。日頃から災害に備えることによって、災害時の被害を最小限に食い止めることができると思います。

（地元意見）

初期消火が一番大事だと言われていますが、道具に対しての補助金もあまりありません。

補助金は５万円もらいましたが、全然足りません。ヘルメットと格納箱３つで８万円程度かかったので、赤字です。合併前は結構手当がありました。

（深澤市長）

道具等を購入する補助金については、今年から自主防災会に対する助成制度の充実を図らせていただいています。必要に応じて、来年度以降も今まで以上に充実を図っていきたいと思っています。何といっても、市民の皆様の安全安心の確保は非常に大切なことですので、今まで以上に取り組んでいきたいと考えています。赤字になっているということで、このあたりについても徐々に検討させていただきたいと思います。従前は、訓練を行っていただくための補助金として１８，０００円をお出ししていたと思いますが、これではホースに穴があいても対応できないということで見直しました。宝くじ事業の助成金もよく活用していただきますが、補助金が下りる数に限度があり、要望に全部お応えできていない状況です。防災は非常に大切なことですので、引き続き検討させていただきたいと思います。決して今で十分だとは思っておらず、少しずつですが充実を図らせていただければと考えていますので、ご理解ください。

（地元意見）

地区公民館と体育館が避難所に指定されていますが、災害が発生した時に総合支所から職員が数人来ても、避難所を開設して対応できるのでしょうか。地域の人の顔も名前も知らない職員です。地域には防災部会があるのだから、行政と地域の組織とが災害時対応のシミュレーションをするなどして連携を深めていってはどうかと思います。

（深澤市長）

平素から連携をとることと、災害に対する意識を全市的に高めていくことは何よりも大切ですので、それに関する取り組みを今後さらに進めていこうとしています。その中で、「リーダー研修」として３日間にわたる研修を受けていただき、防災に関する地域の指導者を養成する取り組みも進めています。

大きな災害が全市的に広い範囲で発生した場合は、関係機関だけではなかなか対応できないのが実情です。「自助・共助・公助」とよく言いますが、一番身近な地域の皆様でお互いに助け合っていただくことが何よりも大切なことではないかと思っています。そのためには、日頃から訓練を実施していただくことが、災害発生時により効果的に対応していただけることにつながっていくと思います。今後もそういう視点に立ち、地域の防災組織の皆さんや自主防災会の皆さんと連携させていただきながら、安全安心の確保に努めていきたいと考えています。

（支所長）

現在、避難場所についての見直しを市全体で実施しています。青谷町内の避難場所の指定は３４か所ありますが、見直し後は１２か所程度になると思います。日置は現在、地区公民館とグラウンドと体育館が避難所になっています。平成２４年４月の区長会で資料をお渡しし、そういった見直しを含めて、集落単位の自主防災組織の充実についても集落内

で話し合っていただき、何か動きがあればご相談いただくよう説明しました。それを受けて、勝部の楠根集落が早速自主防災組織を立ち上げておられます。各地区まちづくり協議会や地区の防災組織があると思います。どう関わりを持っていくかということは今後ご相談したいと思います。

一番問題になるのは、避難場所を開設するまでと、開設した時の運営人員です。市から派遣する職員はおそらく１名か２名程度ですので、地区公民館職員やまちづくり協議会さんなどと一緒になって避難所の運営などを考えていきたいと考えています。これが今後の宿題だと考えています。

（地元意見）

コミュニティ活動支援事業補助金は、バザーに使った皿やコップ、食材などの消耗品は補助金の対象になりますが、ずっと残していく物は対象となりません。行事を継続しようと思えば、ずっと残していく物も必要です。なぜ、残していける物が補助金の対象にならないのでしょうか。残る物を補助申請しようと思えば、どのような制度がありますか。

（企画推進部長）

私も詳しい制度を今把握できていませんが、1万円以上の物は耐久して残る備品として、対象外にしています。制度そのものがそうなっています。市全体の制度はまた確認して、公民館を通じて回答させていただきます。

（地元意見）

地区体育館に飲料用の水道がありません。トイレの水は飲めますが、トイレの水を飲むわけにはいきません。手洗いの水もないので、１年に一度の体育館の掃除の際も、バケツを持って遠くまで水汲みに行かなければいけない状況です。

公民館から総合支所の教育委員会分室に、子ども達がグラウンドで遊んだ後に手洗いができないので水道をつけて欲しいと要望を出していますが、回答はまだきていません。安心安全の関係ですし、ましてや子どもが使うことなので、早急に手立てを講じてもらったほうが良いと思います。

（支所長）

要望は伺っていますので、予算がつくかどうか分かりませんが、新年度予算要求の中に組み込んでいます。

＜担当課補足：体育課＞

体育館入口横の水飲み場が漏水等により断水していましたが、平成２７年１月に修繕完了しました。

（地元意見）

河原飯里線という山の中の農地を走る道があります。台風などで大雨が降った時などに朝早く上がると、とても大変な状況です。一度現場を見ていただき、地元の者と話をして

ほしいです。平常時は良いですが、大きな水が出るととんでもないことになります。

（支所長）
６月に開催した地区座談会でもその話題が出ました。側溝の土砂の撤去も含めて、法面が危ないとのことでした。一度現地を一緒に歩かせていただき、ご要望を伺おうという話で終わったように思います。現地の確認については総合支所も準備しています。西工事事務所の職員を連れていきますので、まずはご案内をお願いします。

（地元意見）
私は梨を作っていて、そのために開いた五本松改良区に上がる道があります。その道の除雪が、だんだん手が抜かれてきています。個人ではできないので、大変困っています。除雪は一度きり、３月の終わりです。すると、梨の剪定ができなくなるのです。１軒の梨農家が１ｈａ以上の果樹園を持っていますから、とても間に合わない状況です。それなら秋のうちに剪定しろという話になりますが、その時期に決まった作業があります。豪雪が何度も降るようなら、一度のみという一辺倒の回答ではなく対応をお願いしたいと思います。

（支所長）
河原飯里線については、地形的に常時の除雪は無理です。そのこともあり、今は春先の早い時期に除雪することとし、一番最後に実施しています。
合併前と合併後の除雪の路線の距離は、合併後の方が延びています。除雪路線というのは、新しく追加することがあっても廃止することがまずないからです。距離的には延びている中で、限られた業者で行っていることと除雪内容の問題もあり、除雪が遅いとか以前のようにきれいにかいていないなどのご不満は多々いただいています。改善できるところは改善していきたいと思いますので、ご理解をお願いします。

（地元意見）
今月、新しい市議会議員ができます。先日の議会では、１人の議員が退場したとのことで、庁舎問題の結論が出ませんでした。本当に早く決着をつけてほしいです。私達はどちらでも良いのですよ。それより大切なことは、住民のための行政をしてほしいということです。本庁舎はどうでも良いです。私達が行くのは総合支所です。ただ、早く決着をつけてほしいということです。

６　市長あいさつ
庁舎についてご質問をいただきました。併せて最後のご挨拶をさせていただきたいと思います。
本日は本当に限られた時間でしたが、非常に多岐にわたってたくさんのご意見、ご提言をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。合併してちょうど１０年が経過しました。いろいろなことがありましたが、今後、多くの市民の皆様と私達が一緒になって、力を合わせて将来を見すえてもっと良いまちにしていく、そして

新しい鳥取市を築き上げていく、そういったスタートの年であると私は考えたいと思っています。

青谷町が西の端になっているというご意見がありましたが、うまくいけば、平成２０年代には西道路が全部つながると思います。吉岡温泉町から青谷町までは、平成２０年代のうちに通れるようにすると、国土交通省も言っておられます。しかし私は、鳥取西インターチェンジから吉岡温泉町までについても、平成２０年代に何とかつながらないかということで、広島県にある国土交通省中国地方整備局に要請に行ったりと、さまざまな働きかけを行っています。西道路がつながれば、青谷町に企業が立地するなど、ますます地域が活性化していくと思います。数年後には、そういう時代がやってくると思います。それまでに、庁舎問題についても何とか正しい形で決着させなければならないと思っています。合併特例債という非常に有利な制度があり、これがあと５年使えます。しかし、５年の間に事業が完了しなければならない、つまり新庁舎が５年の間に完成しないと使えません。合併特例債については､反対の人達は借金だと言っておられますが､そうではありません。５％の手持ち金があって９５％は借り入れができます。それを元利償還ということで通常は２０年かかって分割払いで返していくのですが、その際、７割分は国が地方交付税として確実にお金を出してくれます｡結果として１／３の自己負担で２０年の分割払いとなり、非常に負担が少ない有利な制度ということです。非常に良い制度だということで、全国の至るところで平成の大合併が進んだわけです。国も合併させたいので、こういった有利な制度を作ったという経緯があります。これを活用しなければ、庁舎整備という大きな事業は非常に負担が大きくなり、結局市民の皆様に何らかの形で負担をおかけすることになります。そのため、庁舎整備にはこの合併特例債を使うしかないと思います。耐震改修であれ新築であれ、この制度を使うことになります。５年間ということでもう待ったなしですので、正しい形、新築移転ということで解決を図らなければならないと思います。市議会議員選挙も１１月１６日にありますが、正しい判断をしていただける議員にぜひとも出ていただきたいと思っています。私は引き続き新築移転が正しい選択であり、もうこの選択肢しかないと考えていますので、非常に難しい状況にありますが、引き続き努力していきたいと思います。今日、多くのご意見をいただいたように、市政にはさまざまな課題があります。こういったことに、今こそしっかり取り組んでいかなければならないと思っています。これ以上、そして５年以上長引かせるわけにはいかないと考えており、今後も全力で取り組みたいと思いますので、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本日は、お忙しい中、この地域づくり懇談会にご出席いただき、長時間にわたって活発にご議論いただきましたことに重ねて感謝を申し上げ、終わりにあたってのお礼のご挨拶に代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。